



# 科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)  
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

## 生物シリーズ

姫路市の蝶

### ジャコウアゲハ

*Atrophaneura alcinous Klug*

姫路科学館 学芸・普及担当 徳重 哲哉

#### ■ジャコウアゲハってどんなチョウ?

ジャコウアゲハは、<sup>りんし</sup>鱗翅目 (チョウ目) アゲハチョウ科アゲハチョウ亜科キシタアゲハ族ジャコウアゲハ属のチョウです。<sup>はね</sup>翅は全体的に黒く、<sup>こうし</sup>後翅が斜め後方に細長くのび、長い<sup>びじょう</sup>尾状突起があります。後翅の<sup>こうえん</sup>後縁に三日月型またはハート型の紅紋がある一方で白紋はないので、姫路周辺で見られる他の黒いアゲハチョウ類とは区別できます。体は黒く、側面に鮮やかな紅色の模様が入ります。オスは前翅が黒、メスは黒みが薄く黒よりは淡褐色に見えるので、オスメスの区別は簡単です。なお、ジャコウアゲハの名前は、オスの成虫が腹部先端から<sup>じゃこう</sup>麝香のような匂いを出すことから付けられました。

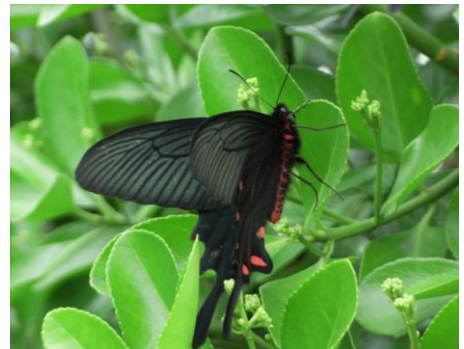


写真1 ジャコウアゲハ

日本のアゲハチョウの多くは、幼虫が食べる餌 (食草) はミカン科植物ですが、ジャコウアゲハの食草はウマノスズクサ科です。このためジャコウアゲハは、日当たりの良い河原や人里など、ウマノスズクサが生える場所で見られます。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布しますが、ウマノスズクサが分布しないトカラ列島はジャコウアゲハの分布空白域となっています。

ジャコウアゲハは<sup>どくちょう</sup>毒蝶ですが、<sup>どくが</sup>毒牙や<sup>どくはり</sup>毒針はなく、触っても害はありません。ジャコウアゲハの毒は、ジャコウアゲハ自身が作るのではなく、幼虫が食べたウマノスズクサに含まれるアルカロイド系の毒が体内に蓄積したものです。毒によって積極的に天敵を撃退するのではなく、ジャコウアゲハを捕食した鳥などの天敵が毒で中毒を起こすと、その後はジャコウアゲハを捕食しなくなるという、消極的な防御に役立っています。黒い姿に鮮やかな紅紋という姿は天敵にも覚えやすいようです。このため、クロアゲハ、オナガアゲハ、

アゲハモドキなど、毒を持たないのにジャコウアゲハそっくりの姿に擬態して身を守る種もいます。このような擬態をベイツ型擬態とといいます。

## ■ジャコウアゲハの一生

チョウは食草に卵を産みます。ジャコウアゲハはウマノスズクサの葉の裏に直径2mm程のオレンジ色の丸い卵を産みつけます(写真2、3)。幼虫は黒い体の中央付近に斜めに白い横帯が入り、全身にあるイボ状突起の先端は赤みがかっています(写真4)。終齢幼虫になっても姿は変わりません。終齢幼虫が他のアゲハチョウ類のような緑色のイモムシでなくても、刺激をすると臭く匂う臭角を出すとという共通の特徴があります。蛹は黄色い独特の姿をしており、糸を吐いて作る帯で頭を上にして壁や柵などの人工物や木の幹などにつきます(写真5)。その姿が後ろ手で縛られたように見えることから、播州皿屋敷のお菊にちなんで「お菊虫」と呼ばれます。成虫は春から夏にかけて、1から4回程度発生します。蛹で越冬します。



写真2 葉の裏に産卵

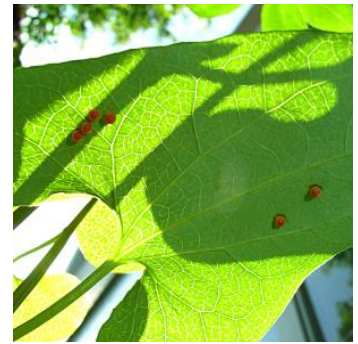


写真3 卵

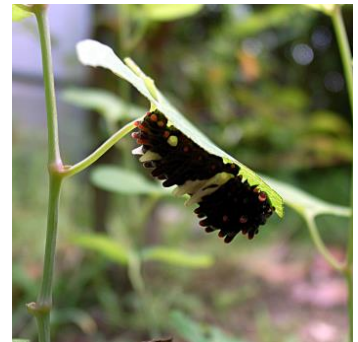


写真4 幼虫



写真5 蛹(お菊虫)

## ■姫路市の蝶ジャコウアゲハ

ジャコウアゲハは姫路市の蝶に選ばれています。これは、姫路城主だった池田家の家紋が揚羽紋であること、幼虫の食草がウマノスズクサのため農作物に害がないこと、そして、お菊虫(蛹)が土産物として売られていたことが理由です。土産物のお菊虫は、志賀直哉の『暗夜行路』にも登場し、お菊神社で売られていたと書かれています。姫路科学館元館長の上田倫範氏によると、花田周辺で採集したものを蒸した後に乾燥させ、姫山神社のお札とともに販売し、通販もしていたようです。

ジャコウアゲハは市内各地で発生しますが、市の蝶に指定されていることから、小学校や市の施設でウマノスズクサを栽培し、ジャコウアゲハを増やす取り組みが盛んです。姫路科学館でも、敷地の一部にウマノスズクサを植えています。今年はウマノスズクサがうまく定着したためか、幼虫が大量発生しました。5月28日の自然系ジュニア学芸員講座受講生による調査では、137匹の幼虫を数えました。その後、同じ受講生たちによる6月18日の調査では、幼虫は数匹に減り、44匹の蛹を確認しています。幼虫の約32%が蛹になったことになり、数え落としもあると思いますが、幼虫、蛹とも、予想を超える数でした。